



働こう障害者も 働けるんだオレたちも こぶしだより

企画：社会福祉法人 こぶしの会
発行責任者：藤田勝春
編集責任者：田澤幸子
発行所：障害者団体定期刊行物協会
(〒157-0073)
東京都世田谷区砧6-26-21
定価 100円



もくじ

- ①特集 見てきた、聞いてきた北欧障害者の暮らしの様子(第1回) … 2・3ページ
- ②仲間 … 4・5ページ
- ③保護者 … 6ページ
- ④トピックス … 7ページ
- ⑤掲示板 … 8ページ

みやき

みやき作業所 関本 正子

社会福祉法人
こぶしの会

- 法人事務局 こぶし作業所・生活支援センター ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401
TEL 028(662)1911 FAX 028(662)1912
- みやき作業所 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244
TEL 028(687)1040 FAX 028(677)5789
- デイサービスセンター
- 第2みやき作業所 ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532
TEL 028(677)0495 FAX 028(687)4818
- 県東ライフサポートセンター
- グループホーム こぶしのときわ荘 ☎321-0954 栃木県宇都宮市元今泉6-14-20
TEL 028(662)5533
- グループホーム すずらんの家 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2305-2
TEL 028(677)4430

特 集

見てきた、聞いてきた 北欧障害者の暮らしの様子

(第一回)

けやき作業所所長 高橋 温美



去る、九月十一日から二十一日の十日間、きょうされん生活施設・グループホーム部会主催で、「北欧での障害者の「暮らしの場」」視察・研修を行い、私も参加させていただきました。今回こぶしだよりの紙面にて報告させていただけるということでありがたく原稿を書かせていただきました。

実を言いますと今回の旅行は、終わってから始まったというのが実感です。その第一の要因は、私の事前勉強の不足によるもので、帰国し、視察を振り返り「いったいあの事はどういう事なんだろう。」という疑問ばかりが沸き上がってくるという事情によるもの。

二つ目には、私にとって最大の関心事なのですが、今回の視察の中で北欧における障害者の「暮らしの場」の状況がどれ程私たちの実践に役立つのだろうかという疑問点です。確か福祉先進国の北欧が日本でクローズアップされたのは八十年前後のことだったと思います。その後暉峻淑子埼玉大学教授の「ゆたかさとは何か」(岩波新書)で積極面が取り上げられました。議論の大方は、「そうはいつでも日本の風土や国のあり方が違う。参考にはならないの

ではないか。」「直輸入するのは間違い。」などと、

日本国民の家族に対する考え方を根拠に、北欧型福祉社会の議論は消えかかっていたのではないでしょう。今回の研修も、単なる研修のための研修ではないわけで、きょうされんの「生活の場についての政策提言」に活かしていくことが目的でした、もっと日常的な部分での一般国民の障害者に対する認識や施策を変えていった、その力のようなものを少しでも探れたらいいなと思っていました。短い日程ではどうも無理なことと思っていました。そんな気持ちを抱いたままの視察でした。帰国後、「障害者福祉推進の原動力をどうつくっていくか」(主体形成)という点での関心が強くなってきました。その意味では今回の視察旅行は自分にとって大きな意味があったと思います。

さて、今回の日程はデンマークの中でもオフィス方式と言われる程の障害者施策の進んでいる同国第二の都市オーフス県、スウェーデンは二班に分かれ、南部のマルメとエンゲルフォルム(私はマルメのグループに入りました。)を回ってきました。両国ともデンマークでは片岡さんという、ちょう

ど私が三十年ほど前に世界をヒッチハイクした頃、デンマークに渡り、回国で学び、通訳業を主な仕事としていた方が、又、スウェーデンでは、マルメ大学総合病院内にある、リハビリテーリングセンターで作業療法士として十年ほど従事しておられる河本さん（二〇年ほど回国で暮らしている）という二人の日本人の同行者につき、両国の生活状況を知願ってでもない良い状況となりました。

※河本佳子さんは新評論という出版社から「ス

ウェーデンの作業療法士 大変なんです、でも最

高におもしろいんです」という本を著しています。

旅は、のっけから台風の上陸、マルメに向かう列車内でニューヨークの同時多発テロのニュースが入るなど波瀾万丈の幕開けとなりました。おまけに、デンマークの列車は下車時に乗客がボタンを押して降りる方式なのですが、テロのニュースで興奮していた我々は、ボタンを押し忘れ、下車するはずの駅の風景が過ぎていくのを呆然として見送ってしまいました。時は真夜中〇時。次の駅で降り立った私たちは、絵本の風景のようなデンマークの住宅街をぼんやりと眺めていました。

やっとなつかまえた二台のベンツ（こちらではタクシーはほとんどがベンツとボルボ。）で宿泊地であるエグモント宿舎に向かって時速100kmを超えるスピードで闇の中をひた走りました。

私たち一行のデンマークでの拠点はオーフス県の南に位置するエグモントの国民高等学校の寄宿舎です。デンマークでは教育は基本的に無料。外国人も無料で、このエグモントホイスコーレンにも数人の日本人が福祉を学びに来ていました。さらにこれら国民学校では学びたいときに学べるし、障害者ももちろん受け入れています。老若男女様々な志を持つて学舎に全国から集まっていたのは大変興味深いものでした。カリキュラムは芸術を含め多彩なものがあります。多くの学生の中で、一人のダウン症の知的障害者と思われる学生が人気を集めていたのが印象的でした。

さて、一日目は良い天気と老化も手伝い朝早く起きてしまいました。寄宿舎の周りは完全なるリゾート地（鳥瞰図参照。私たちの宿泊したケビンは上の方に見える栈橋のふもとにあります）。浜辺にたたずみ、美しさと静けさにはばしぼんやりしていると、

高齢の女性が栈橋に自転車で乗り付け、目の前で水着に着替えて泳ぎだしたのにはびっくりしました。こちらの十月上旬の朝は肌寒いのには……。こうして私は北欧のゆつくりとした時間の流れと日本人の体内的時計のギャップにとまどいながらも、北欧の理知的な優しさのようなものの虜になっていったのです。（次号につづく）



〈鳥瞰図〉

自立生活体験 はじまる

恒例の宿泊訓練が、「自立生活体験」と装いも新たに再出発しました。仲間が一年間楽しみに待っています。

こぶし作業所では、一年を通して二泊三日の宿泊訓練を行ってきました。昨年までの宿泊訓練は、「生活自立」「身辺自立」「家庭から離れた生活の体験」の三課題別にグループを編成し、その目的を達成するよう取り組んできました。最初は県の身障会館を使用しましたが、現在では作業所横の生活実習棟「つくしの里」を使用しています。毎年実施してきました、仲間同士での生活を体験し、生活の力を培ってきました。

と同時に要求も多様になってきました。そこで、本年度から、名称を「自立生活体験」と改称し、グ

ループ編成も課題別にとらわれず、より「普段の生活」に近づけた取り組みを目指しています。この「体験」には仲間からも保護者からもいろいろな声が寄せられます。

(仲間)

「宿泊のお知らせ、まだ？」
「外食に行きたい」
「・・・さんと泊まりたい」
「宿泊には好きなビデオを持ってくるよ」

(保護者)

「宿泊を楽しみにしています。家では、私と一緒に野菜を切つて料理を手伝っています。宿泊でもぜひやって欲しいです」
「ごとの宿泊、まだですか？決まったらすぐ知らせて下さいね」

「この宿泊の期間中は、ちよつと夫婦で出かけなければならぬのです。とても助かります」

さて、実際の体験の様子ですが、どの仲間も作業

所での仕事から解放されてゆつたりとしています。

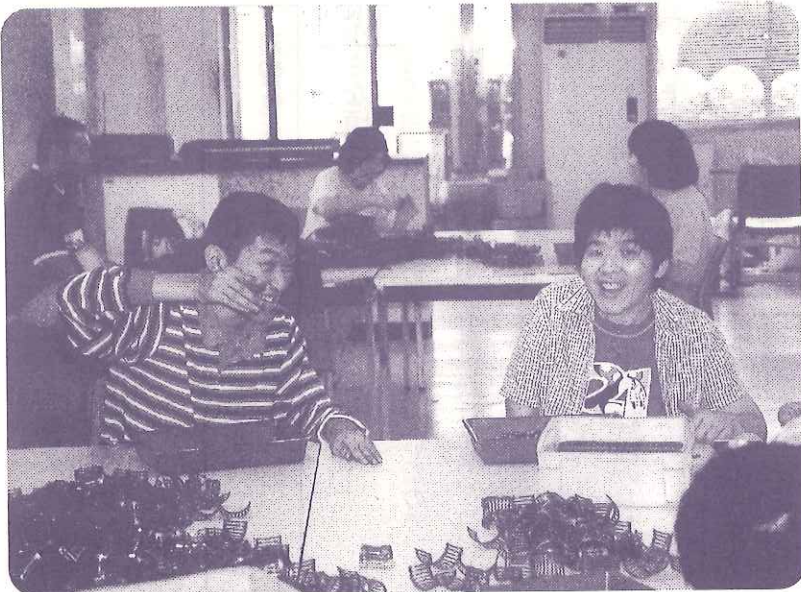
買い物を済ませいざ食事となりますが、食事一つとっても要求が分かります。ある仲間は「絶対つくしの里でご飯をつくる！」と要求をだし、実際に食材を用意したり食事づくりを手伝ったりしています。別の仲間は、大好きな仲間や職員との宿泊だからと外食に行こうと張り切っていました。いざ出発してみると、仲の良い仲間三人でラーメンを食べていました。つくしの里に戻ってからは入浴、テレビを見てのんびりと過ごします。

(仲間の感想)

「たのしかった」
「もっと泊まりたい」

(保護者の感想)

「家庭と宿泊ではずいぶん様子が変わるんですね」
「宿泊中、体調の崩れを心配しましたが、偶然買い物しているところではったり会って元気そうなので安心しました」



▲宿泊しても、仕事中はこんなに元気です。

仲間は、親から離れた生活をエンジョイしています。なかなか眠りにつけなかった仲間も、次の日の仕事では寝ることなく張り切って仕事をします。これからもこぶしの自立生活体験は続きます。親元から離れた生活経験を積んで、グループホームや一人暮らしをする仲間がふえるといいなと思います。

(東岡 歩 記)

地域で暮らす

一人暮らしをしていた第二けやき作業所の加藤さんが、「けやきハイツ」で仲間と一緒に生活を始めました。

家にいるときは寒くて誰もこない所に一人寂しく暮らしていました。生活も適当にやり、気ままな生活でした。そんな中、グループホームがあるということを知られ、私も一人で暮らしていることもあり希望により、入居が決まりました。生活をしてみると今までとうってかわり、日当たりも良くとても良いところです。こんな家に住むのは想像していませんでした。みんなと仲良くしています。困ったときも話につけてくれていろいろ相談することが多く悩みも徐々になくなってきました。物事を相談することはいかに大事かということがわかりケースバイケースでメリットも多い反面、デメリットも出てきます。メリットの部分を最大にしてなおかつデメリットの部分を最少にすることで問題を解決してもらおうということが一番良いのではないかと思います。これからも元気にもめ事が起きたときは皆で相談し、さらに話し合いながら一生懸命にやっていきたいと思っています。

(加藤 一位)

おむすび

保護者
リレートーク

今回はけやき作業所に通所されている広瀬智也さんのご家族の登場です。

〈小さな頃は？〉

小さな頃から障害があるとわかっていたので、真岡西小学校に入りました。特殊学級は十名ぐらいで、先生や友人に恵まれて楽しかったです。地元の小学校では味わえないこともできたのではないのでしょうか。あつという間の六年間でした。小学校当時の友だちと会うと今でも話ができますが、恥ずかしいという思いからか、なかなかふざけることまではいけません。

〈益子養護学校では？〉

おとなしい感じで過ごしました。中学では体調を心配したため、規則正しい生活を心がけました。
〈けやきにはいつてからは？〉

食事時に、一日の出来事を話してくれます。それは、仲間のことや納品のことです。体を使うことが好きなので、パンの事は楽しくやっているのでないでしょうか。けやきに来てから性格が明るくなって、働く意欲がでてきたのではないのでしょうか。嫌だと

いうことは嫌ですが。

〈将来の夢は？〉

就職です。それも、体を動かして働くところがあれば。ただ、周りの環境がなかなか整わない中では難しいでしょうか。だから、パン班の中で積極的に仕事を覚えてきた上でと考えています。

〈けやきに対して何かありますか。〉

(けやきの雰囲気) 智也に合っているから、今のままでいけたら一番です。仕事面でのやる気は二重丸です。急がず、一生懸命がんばってくれば、また、一人で自由に歩けるようになればいいです。

お忙しい中、どうもありがとうございました。



お知らせ

セルプ・みらい ニユース

去る十月二十七日、みらいの会初めてのダンスパーティーを行いました。期間も短く準備が不十分だったため大成功とは行きませんでした。そこで、年内にもう一回やろうということになり、十二月十五日(土) 第二回目を開催します。
・会場は宇都宮市東コミュニティセンター
・会費は一〇〇〇円です。

お誘い合わせの上ご参加下さいますようお願い致します。

さて、建築工事もほぼ予定通り進められています。屋根もふき上がりました。見学用のヘルメットもたくさん用意していただきました。ぜひ現地の方にもお出かけ下さい。



家族旅行(こぶし)

今年のごぶしの家族旅行は新潟瀨波温泉の旅。

「酒(さけ)と鮭(さけ)」に堪能する旅でした。

十一月一日(金)新潟を目指しバスは出発しました。紅葉を眺め、米どころ新潟のお酒を味見しました。夕日が沈む瞬間を見ることはできませんでしたが、それはそれは美しい景色でした。宴会は日本海の幸を賞味しながら盛り上がりました。宴会では和田先生の臨時職員期間が終わるので、感謝の気持ちを込めて仲間からプレゼントを渡しました。雨に降られることなく旅行を終えました。

(仲間の感想)

「宴会で当たった景品が良かった」

「旅行で楽しかったことは、魚の博物館が楽しかった。あとは、おみやげも買った。ホテルのご飯は、夜も朝もおいしかった」

(保護者の感想)

「新潟はとても遠いと聞いていましたし、バスに乗る時間も長いと聞いていましたら、意外に近いです

ね。ゆったりしていて、楽な旅行でした。それから、

今年のバスの乗車割りは、仲間と保護者を別のバスにしましたよね。あれはとても良かった。親同士で話ぐできましたし、ゆったりと座席を使って旅ができました。」

(東岡 記)

家族旅行(げやき)

「今年の旅行は群馬に行きたい」「去年は遠くに行つたから今年は近くで行つたことがないところがいい」との仲間の要望で群馬県に決定しました。

十一月一日、天気にも恵まれた朝、一路群馬県へと出発しました。初日の目玉は「ぐんまフラワーパーク」、パンジーの咲き誇る公園をのんびりと散策

しました。実はここでバスの故障があり、のんびりしすぎるぐらいの時間を過ごしました。二日目、ホ

テルの窓から見上げる空は曇り空と強い風、ごぶし時代からの長い歴史の中で自他共に認める雨男の旅行担当者は突き刺さる視線に絶えながらの移動となりました。それでもこの日の目的地「榛名山」に着く頃は、風は強いものの雲はなくなり、山頂からの紅葉に目を奪われました。

今回の旅行には、交通事故に遭い車椅子の生活に

なった利用者の方が初めて参加して下さいました。これまでは、不安や遠慮があったのではないかと思います。今回ご本人からも「行ってみたい」とのお話をいただき、旅行中の介助体制をしっかりと組むことにしました。ご家族からも「それならお願いします」とご理解をいただき、おそらく事故後初めてであろう旅行が実現できました。宴会の席でご本人の口から「よろしくお願ひします」との自己紹介があり、参加していただいでいて本当に良かったと感じることができました。

参加者がちよつと少なく寂しかった感はありませんが、保護者の皆さんの協力で楽しい家族旅行となりました。

(荒井 記)

12月こよみ

こぶし作業所

12月1日(土) 支援会議
12日(土) 職員会議
22日(土) 職員会議(学習会)
23日(日) クリスマス会
28日~2002年1月3日 冬期休暇

げやき作業所

12月1日(土) 支援会議
15日(土) 全体職員会議
23日(日) 忘年会
28日~2002年1月3日 冬期休暇

サポートセンター

12月1日(土) 支援会議
22日(土) 忘年会
28日~2002年1月3日 冬期休暇

掲 示 板

セルフ・みらい建設のための 募金にご協力ください

施設を建設するためには、多額の資金が必要になります。国や県から補助を受け、又、公的な融資制度を活用しても約1,700万円の寄付・募金がないと、施設を建設できません。

そのため、皆さまには、私たちの施設づくりの趣旨をご理解いただき、施設建設募金へのご協力を心よりお願いいたします。

募 金 要 領

1口3,000円です(何口でも結構です)

募集をしてくださる方は

●事務局または作業所にお持ちくださるか、下記までお電話いただければ幸いです。

事務局(佐護方) 0285(84)6181

けやき作業所 028(687)1040

●ご送金(郵便振込)の場合は、所定の振替用紙をご使用いただくか、下記へお願いいたします。

郵便振替 口座番号 00140-9-558846

みらいの会

カレンダー・物品販売
にご協力いただきあり
がとうございました。



障害のある人たちの
働く場づくりに
ご協力を

2002年版
カレンダー発売

こぶし作業所では、作業班
の仕事として仲間の給料アッ
プのためにとりくみました。
また、けやき作業所では、後
援会が販売にとりくみました。

こぶし作業所・けやき作業所
後援会会員拡大にご協力をよろしく
お願いいたします。

ボランティア 募集

こぶし・けやきで
楽しく仕事をしませんか

内容 こぶし作業所
けやき作業所
デイサービスセンター
第2けやき作業所
(作業所で仲間と一緒に仕事を
して下さる方募集しています。)
キッチンセルフ
厨房・フロントでお手伝いし
ていただける方
ときわ荘
日中のそらじボランティア
大募集
すずらんの家
夕食づくりボランティア

きょうされん
賛助会員募集
連絡は栃木支部事務局
けやき作業所へ



ふふふせつけん
好評発売中!!
粉石鹸 1.2キロ入り 240円
固形石鹸 2個入り 100円



みらいの会支援
**ダンス
パーティ**
12月15日(土)
宇都宮市東
コミュニティセンター
お問い合わせは
けやき作業所まで
みらいの会まで

にここパン屋さん
各種豊富に取りそろえて
おります。注文票をFAX
にてお送りしますので、
お気軽にご連絡下さい。
けやき作業所
直通電話兼FAX
028(687)1788へどうぞ。

